

ポストコロナを見据え、大阪・関西万博やスーパー・メガリージョン形成等のインパクトを活かし、東西二極の一極を担う「副首都」として、さらに成長・発展していくため、関西圏や大阪都市圏全体を視野に、2050年を目標として、大阪のめざすべき都市像やまちづくりの方向性、その推進の取組等を示す。

## 1. 大阪都市圏からみた特徴・役割

- ◆交通ネットワークを中心に都市機能が集積した市街地が連担し、コンパクトな府域を形成
- ◆近隣府県の主要な都市と一体となって、広域的な経済交流圏を形成
- ◆都市に近接した豊かな自然や歴史・文化資源等の多様な地域資源が集積、アクセスが良い
- ◆西日本経済の中心、世界のゲートウェイの役割、スーパー・メガリージョンの西の核としての機能が求められている
- ◆1970年大阪万博から50年余りが経過、大阪の安全・安心や成長・発展を支えてきた多くの都市ストックの計画的な更新により、大都市のリノベーションを進めることが重要

## 2. めざすべき都市像

(1) まちづくりの目標 **未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり**

- 【将来像】
- ①魅力的な国際都市として成長する大阪 **「イノベティブな大阪」**
  - ②健康長寿で誰もが幸せを実感しながら暮らせる大阪 **「ウェルビーイングな大阪」**
  - ③未来へつながる安全・安心な大阪 **「サステナブルな大阪」**
- 【まちづくり推進の視点】「ダイバーシティ(多様性の確保)」、「コ・クリエーション(共創)」、「リソース(資源の活用)」



## (2) 大阪を取り巻く都市構造

◆府域の都市軸

◆府域のゾーニング

土地利用や人口・都市機能の集積状況等を踏まえ、6つのゾーニングを設定

◆大阪都心部  
◆都心部周辺  
◆郊外部  
◆ベイエリア  
◆河川空間  
◆周辺山系

## (3) めざすべき都市構造

◆広域レベル

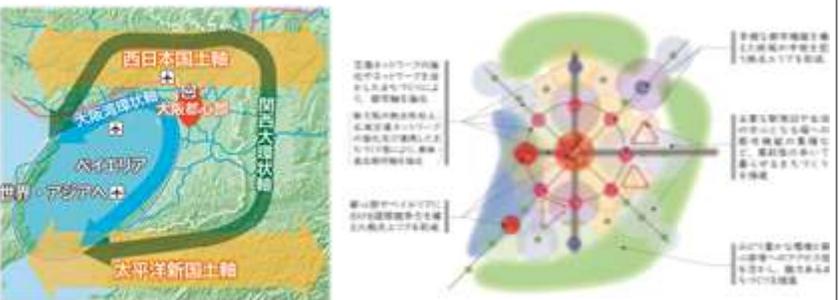
◆府域レベル

広域的な都市構造を活かした都市圏の形成

国土軸や環状軸、空港・港湾・新幹線等の広域交通インフラなど、広域的な都市構造を活かし、スーパー・メガリージョンの西の核、世界のゲートウェイに相応しい都市圏を形成

マルチハブ&ネットワーク型都市構造の形成

都心部やベイエリアにおける国際競争力を備えた拠点エリアの形成とともに、放射・環状の都市軸上に多様な都市機能を備えた拠点エリアや魅力ある生活圏を形成し、相互に連携する都市構造をめざす



## 3. まちづくりの戦略と取組の方向性

広域的な視点から取り組むべき5つのまちづくりの戦略とその取組の方向性を示し、民間活力を最大限に引き出しながら、多様な主体が一体となって取組を進める。

戦略1	戦略2	戦略3
<b>成長・発展をけん引する拠点エリアを形成</b> <b>1) 世界で存在感を発揮する拠点エリア</b> 都心部やベイエリアにおいて、国際競争力を備えた拠点エリアを形成 【拠点エリアの候補】「新大阪・大阪エリア」、「大阪城・周辺エリア」、「なんば・天王寺・あべのエリア」、「御堂筋・周辺エリア」、「中之島・周辺エリア」、「夢洲・咲洲エリア」、「堺都心周辺エリア」、「関空・りんくう周辺エリア」計8エリア <b>2) 大阪の中核を担う拠点エリア</b> 都心部周辺や郊外部において、多様な都市機能を備えた拠点エリアを形成 【拠点エリアの候補】 都市軸の結節性等を重視し、10エリアを設定 <b>3) 経済成長を促す産業拠点・集積エリア</b> ものづくり産業や環境・新エネルギー産業、健康・医療関連産業など、大阪の成長・発展をけん引する産業拠点エリアの形成や、幹線道路沿道やベイエリア等での新たな産業用地等の創出 など	<b>大阪ならではの魅力を活かし、暮らしやすさNo.1都市を実現</b> <b>1) 駅周辺での拠点形成と魅力ある生活圏の創造</b> 駅周辺の再整備等に併せて都市機能の集積、人中心の空間への転換、鉄道沿線まちづくり ・新たな住居の活用による回遊性の向上 など <b>2) 郊外住宅地を多様な世代が住み、働き、交流するまちへ再編</b> 地域の核となる機能の導入や coworkingスペース等の働く環境・場の創出 ・新たなモビリティを活用した移動円滑化 ・周辺の田園環境を活かした農との共存 など <b>3) 豊かな自然を活かしたまちづくり</b> ・AI(付加価値)交通等による交通アクセスの確保 ・既存ストックを活用した働く場等の創出、先端技術を活用した生活支援サービスの提供 ・豊かな自然を体験できるまちづくり、ワーケーションやマルチハビテーションの促進 など	<b>海・川・山や多様な地域資源を活かし、地域を活性化</b> <b>1) 大阪広域ベイエリアのまちづくり</b> ・多様な地域資源・ストックを活かしたまちづくり ・海上交通・自転車等による回遊性の向上 など <b>2) 河川空間を活かした魅力あるまちづくり</b> ・舟運活性化や水辺空間の整備等にぎわい創出 ・自転車等による回遊性の向上 など <b>3) 周辺山系の自然資源等を活用したまちづくり</b> ・自然資源、歴史・文化、風景地等のネットワーク化 ・民間活力による魅力向上 など <b>4) 多様な地域資源を活かした魅力あふれる都市空間の形成</b> ・世界遺産など、歴史・文化遺産を巡る観光ネットワークの形成 ・景観資源やアートを活かしたまちづくり など

## 支える

戦略4	戦略5
<b>人・モノ・情報の交流を促進</b> <b>1) 交通インフラと連携したまちづくり</b> ・道路ネットワークの機能強化と沿道まちづくり ・交通ネットワークの充実と沿線まちづくり ・空港・港湾の機能強化等 <b>2) 豊かな都市空間を創造するまちづくり</b> ・人中心の快適で魅力ある空間の創出 ・自転車、水上交通、新たなモビリティ、エモビリティを活用したまちづくり	<b>安全・安心でグリーンな社会を実現</b> <b>1) 安全・安心なまちづくり</b> ・人命を守る都市機能の強化 ・供給処理施設の機能維持・再構築とまちづくりへの利活用 <b>2) グリーン社会の実現に向けたまちづくり</b> ・みどりを活かした魅力あふれるまちづくり ・脱炭素・省エネルギー社会の実現に向けたまちづくり ・資源循環型社会の実現に向けたまちづくり

## 4. グランドデザインの推進に向けて

- (1) まちづくりに関わる様々な主体の役割・連携  
・府、市町村、民間事業者・団体、府民等の役割 など
- (2) 推進体制や推進のための仕組みづくり  
・規制緩和や公民連携の促進など、民間主導による取組の推進 など
- (3) めざすべき都市像の実現に向けたステップアップイメージ

## 5. 取組ロードマップ

短期(2025年)、中期(2030年)、長期(2040年)、超長期(2050年)を目標年次とした拠点エリア等における主な取組のロードマップ

## 6. まちづくりマップ

戦略と取組の方向性を踏まえた、大阪全体のまちづくりのイメージを示す図